

ふれあい

平成20年 6月 第267号

大代地区コミュニティ推進協議会
(編集部)
事務局：大代地区公民館
☎364-8442

〈掲載目次〉

●南区の防災対策について.....	1	2	●大代防犯協会から 総会のお知らせ.....	3
●コミュニティ総会を終えて.....	2	2	●ふれあい短歌.....	3
●春の貞山運河周辺清掃.....	2	2	●大代の歩み(四).....	4
●新日本石油精製より お知らせいたします.....	2	3	●大代墓地ゴミ処理について お知らせ.....	4
●私の中の青い鳥.....	3	3	●ふれあい俳句.....	4

南区の防災対策について

南区防災対策部長 遠田 照夫
南区長 橋本 浩

今後三十年以内に九十九%の確率で発生するといわれている宮城県沖を震源とする大地震に対する地域住民の安全と災害防止のため地域自主防災組織の立ち上げが急がれておりました。南区町内会では随時防災訓練を実施してきましたが、防災組織についてはなかなか立ち上げることが出来ませんでした。

昨年、市の地域防災研修会などに参加して得た知識と市関係者のアドバイスを基に今年四月一日より町内会の役員や運営委員、班長、橋本団地親和会役員、その他町内で支援して頂ける方々をもって防災担当者として南区自主防災組織を発足することにいたしました(名簿は決定済み)。さらにこの防災担当者は次の五班に分かれそれぞれの任に当たっていただくこととなります。

- 一 本部兼情報連絡班
 - 二 避難誘導班
 - 三 消火班
 - 四 給食給水班
 - 五 救出救護班
- また、一昨年から防災のための予算

を計上していただき、防災活動の資材や器具(携帯マイク、担架、消火用バケツ)などを逐次備えております。今後も必要な資材を皆さんのご意見を聞いて準備していく予定です。

昭和五十三年六月の宮城県沖地震から三十年が経ちましたが、その後も阪神淡路大震災、新潟県中越地震など各地で大きな被害が出ております。

阪神淡路大震災の時、消防などによる救助がわずか一・七%、地域住民の救助が九十八%ということでした。いざというとき被害を最小限に抑えるためには地域住民による防災活動が不可欠です。

自分達の家族や街は自分達で守るという意識を皆さんで共有し、地域防災活動に取り入れて行きたいと思えます。

ある調査で、家具の転倒防止や耐震補強について対策を行なった人はまだまだ少ないことと、家族で地震についての心構えや各自の役割などを話し合っても少ないということでした。ぜひ家族で話し合いをしておくことが必要と考えます。次に今一番の課題は災害弱者に対する支援体制です。個人情報保護

法などの問題もあり、苦慮しておりませんが町内の皆さんの協力をいただきながらそのような方々に対しては地域住民で守っていくことをしっかりと確認し対処していきたいと思っております。

次に平成二十年度大代南区防災活動の具体的な行動計画は左記の通りです。

（記）

- 一 自主防災組織の内容充実、強化
- 二 防災活動の資器材の補強整備
- 三 防災訓練の実施と講習会開催
- 四 住民に対する防災知識の普及
- 五 その他防災弱者に対する支援体制の充実と推進

南区のこれからは防災訓練や講習会を通して皆さんと一緒に学びながら、地域の安全に寄与していきたいと思っておりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

コミュニティ総会を終えて

大代地区コミュニティ推進協議会

会長 熱海 五郎

平成二十年度のコミュニティ総会は五月十五日（木）午後六時三十分から大代地区公民館で行なわれ、参加者全員のご理解とご協力により提出議案を

満場一致で決定して終了いたしました。

◎ 推進目標

- 一 心のふれあう社会をつくる運動
- 二 美しい郷土をつくる運動
- 三 資源エネルギーを大切にす運動

◎ 推進事業

★ 広報部

広報誌「ふれあい」の毎月発行

★ 環境美化部

貞山運河周辺等清掃 年二回

（五月・十月）

★ 体育部

グラウンドゴルフ大会（十月予定）

ボウリング大会（十二月予定）

★ コミュニティ推進部

新年を祝う会 平成二十一年一月

その他

春の貞山運河周辺清掃

環境美化部長 荒木 慶蔵

去る五月十一日（日）春の貞山運河周辺の清掃を行いました。

早朝からの作業には六十二名もの参加をいただき、貞山運河周辺の道路、から空き缶やゴミなどを拾いました。早朝から参加していただいた皆さん、ありがとうございました。

一人一人のマナーでゴミは確実に減ります。皆様のご協力をよろしくお願いたします。



新日本石油精製より

お知らせいたします

地域の皆様には、日ごろより仙台製油所の操業にご理解をいただきありがとうございます。今回は定期点検に伴う、交通安全指導についてお知らせい

たします。

今回の定期点検は、精製装置全体を対象とした点検を予定しており、五月二十九日（木）より順次精製装置を停止し、開放・清掃・詳細点検を行い、七月下旬にかけて順次装置の立ち上げを行い運転を再開いたします。

定期点検期間中は、一日あたり千台の工専用車輛が入構するものと見込まれます。渋滞緩和対策として、一部車輛を当所北門から構内に入構させる予定となっております。さらに、協力会社および当所工事担当者は早め出社（時差出社）するようにいたします。また、地元の方々にご迷惑をお掛けすることのないよう、通勤用車輛や工専用車輛等に対し、細い近隣道路の通行禁止や重量車両の減速運転指導をしております（別紙添付）。

また、適宜渋滞状況調査や交通安全立哨による指導等を行なってまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

私の中の青い鳥

大代南 齋藤 富子

平凡な人生を歩んで来た私にも山あり、谷あり。大小の喜びや悲しみ辛さを積み重ねてあつという間に還暦を過ぎた。人それぞれでも時間だけは平等である。昨春秋、小学校以来の友人を失った。私の愚痴、不平不満の聞き役。その言葉の一つ一つに毒されていたかもしれない。言葉は時として人を傷つけ救い、和ませるものだ。救われていた私だが、彼女にとつての存在はどうだったのか。色々な不思議な現象はあつたが何故か今だに夢を見せてくれぬ。彼女の娘さんが言う。「母はいつも斎藤さんに孫ができるの良いのに。と氣にかけていましたよ」。彼女に見せてもらうことは叶わなかったが幸いこの二月初孫を授かった。感謝である。私の中の青い鳥がもう一つ増えた。ヨチヨチ歩きの親鳥は私が育てたのだから多少不安であるが、子育ては育自というではないか。娘もヒナを育てつつ成長するだろう。ババ鳥も巢の中のヒナを覗き見守つていききたいものだ。

大代防犯協会から

総会のお知らせ

大代防犯協会 伊藤 一郎

日時 六月二十日（金）

時間 午後七時

会場 大代地区公民館 二階会議室

全世帯が対象となっておりますので多くの方々の参加をお願いいたします。

総会終了後、塩釜警察署員による講話を予定いたしております。



ふれあい短歌

大代西 藤田 遊子

朝ぼらけ 野鳥の声に 目覚むれば

運河に遊ぶ 海猫の群

千年の夢より醒めし 蓮の花

今日陸中に 匂ひけるかな

自転車の 買ひ物籠に すまし顔

ポチの顔にも 春風そよぐ

孫の歌 唄つて豪邸 建てにける

歌手老ひたるも 声に艶あり

大代の歩み (四)

大代南 渡邊 巖

●村民の暮らし

当時（十八世紀初め頃）、我が村の東部を御船入堀が縦断して、その入口に当たっていたこと、塩竈湾（千賀ノ浦）や七ヶ浜に隣接し、半ば漁村の性格を持っていたことが他の農村と異なる大代村の特徴であった。

砂押川は大代村では舟場川と呼ばれ、ここで御船入堀に接続されて村分の大木戸という所で海（千賀ノ浦＝塩竈湾）に注ぎ、笠神村の方へ続いていた。もともと、御船入堀が掘削された万治年中（一六五八～六一）以前は、舟場川は神酒（みたらし）川と呼ばれていたが、このように半漁村的な大代村の特産品は水産物で、季節的には白魚（春）、蛸・鰻（夏）、鮎（秋）、鰻（冬も）と、大代を代表する産物として藩主への献上品にもなっていた。

では、風土記で当時の町場を見よう。家数は二九軒で、このうち人頭（本百姓）が二七、残る二軒は借家であった。屋敷名の数は、茶屋敷（後には茶屋敷）に一六、古屋敷に七、柏木屋敷に

三、東屋敷に二で、このうち東屋敷の一が潰れ百姓になって絶えたので、これを除くと先の人頭数と同じ二七軒で、

人口は男一二七、女一二〇、合計二四七人であったが、他の村と異なるのは軒数の割に馬の頭数が二五と多く、また、本石米瀬取船八艘、小舟七艘などが有ったことである。その理由は、大代村に陸揚げされる魚や荷物があつた他に、仙台城下と塩竈を結ぶ街道が通り、塩竈に陸揚げされる荷物や水産物の輸送に当たることが多く、更に前述した船が藩や給人の御用船として年貢米の輸送や、藩の許可する米穀の移出入や浜方の魚類等、種々の商取引に関係する人々も住み、単純な農村とは違った生活を営んでいた。 続く

（※傍線部分は別号に号外として掲載いたします。）

大代墓地ゴミ処理に

ついてお知らせ

この程、墓地のゴミ処理に当たり寺役員一同で話し合いをした結果、次のように対処する事に決定しました。

- 一、五ヶ所のゴミ集積所は七月一日で閉鎖する。

二、ゴミは総て各自の責任で持ち帰り、途中に捨てない事。

三、道筋に生えた草等は日を限定して処分する事（墓地周り雑草）。

ふれあい俳句

大代西 松浦 富男

散る花に誘われ逝く弟よ

入棺に手を振る孫に桜散る

朗々の般若心経著莪の花

生きて来た大正生れ昭和の日

今日ならば言える母の日

ありがとう

笠神西 本郷 勝子

みちのくの満目まみどり天台寺

林間に楚々と咲きて延齡草

森を抜けて大気の流れ青嵐

原生林眺方の風に叫ぶ芽吹かな

藤波や古木に巻きつき盛りなり

笠神西 吉野 珠子

雨降りや露の勢い通り路

鯉轍二千いて河風わたる

卯の花よ今日も雨なり仕事行く

挨拶し登校生の立夏の日

蝌蚪の群何を語ろう池の葉ば